

益子国際工芸交流事業 2017
アーティスト・イン・レジデンス in 益子

John Bedding 展
ジョン・ベディング

Mashiko Museum Residency Program 2017
Artist in Residence in Mashiko
The exhibition of the works by John Bedding

ジョン・ベディング

John Bedding [陶芸家・イギリス]

作家のことは

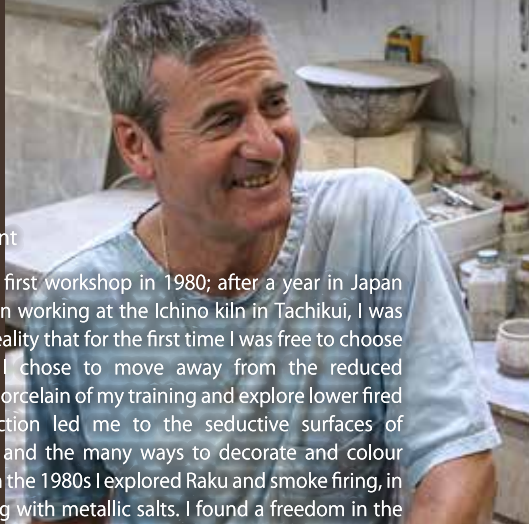
丹波立杭にある市野茂良氏の窯での1年間の作陶を終え、1980年に独立して最初の工房を建てた時、私は初めて自分自身で自分の進むべき道を決める自由という現実と直面しました。それまで作っていた磁器と還元焼成をやめ、低火度焼成の作品を探求する道を選び、この決断が表面に魅惑的な光沢を持つつわ、作品表面への様々な色や装飾法へと私を導きました。80年代の私は楽焼と炭化焼成を探求し、90年代に入るとメタリックソルト(金属塩化物)で燻すことを試すなど、それ以前に成し得なかった形や化学反応の持つ可能性に辿り着きました。

近年の私の仕事は、より絵的な作品を作りたいという欲求から生まれています。まるで作品の表面にタトゥーが入っているようなグラフィックスタイルの模様で覆われた作品のイメージが頭に浮かび、ゴムと重クロム酸塩を用いた古い写真の印画法(現像法)を陶器に使えないか、という考えに行き着き試行錯誤を重ねました。顔料をうつわにのせる際の防染剤として写真の技術を使い、作品表面に直接イメージを描くことに成功、同時期に布用の型紙を作る技術を身に付け、この2つのテクニックが、リーチ工房や初期に学んだこととはかけ離れた、フォトショップなどの描画ソフトで描いたパターンやイメージを使うアイデアへとつながっていきました。

Artist's Statement

Opening up my first workshop in 1980; after a year in Japan where I had been working at the Ichino kiln in Tachikui, I was faced with the reality that for the first time I was free to choose my own path. I chose to move away from the reduced stoneware and porcelain of my training and explore lower fired ware. This direction led me to the seductive surfaces of burnished pots, and the many ways to decorate and colour these surfaces. In the 1980s I explored Raku and smoke firing, in the 1990s fuming with metallic salts. I found a freedom in the chemistry and the shapes that I could not get with my earlier background.

My current pots stemmed from a desire to be more illustrative in my work. I visualised pots covered in graffiti style decoration - patterns tattooed on their surface. I came across an old photographic technique using gum and dichromates and thought I might be able to adapt it to pottery. After much experimenting I adapted it so that I could expose images directly on to the pot using it as a resist for applying pigment. Alongside this I developed a technique for making fabric stencils, both techniques allow me to use computer generated patterns and images that I create using photoshop and other drawing programs, which is a lifetime away from the Leach Pottery and my initial training.



1966-67年	サー・ジョン・キャス美術学校に在籍	1966-67	Enrolled at Sir John Cass School of Art, Whitechapel
1969-71年	リーチ工房にて研修生	1969-71	Worked as a student apprentice at the Leach Pottery
1972-78年	リーチ工房スタッフとして作陶	1972-78	Joined the Leach Pottery's permanent staff
1978-79年	市野茂良(丹波篠山)の工房に滞在し作陶	1978-79	Studied at the Ichino family pottery in Tachikui
1980年	コンウォール、ペンザンスで独立	1980	Set up his own workshop in Penzance
1990年	「セント・アイヴスボタリーアンドギャラリー」を設立	1990	Set up "St Ives Pottery and Gallery"
1999年	集合型工房「ジェールヤードスタジオ」を設立	1999	Set up a complex studio "Gaolyard Studios"
2013年	リーチ工房名誉作陶主任に任命	2013	Became "Honorary Lead Potter" at the Leach Pottery
2017年	リーチ工房名誉陶芸家に任命	2017	Became "Honorary Potter" at the Leach Pottery

2017.10.4(水) - 11.13(月)



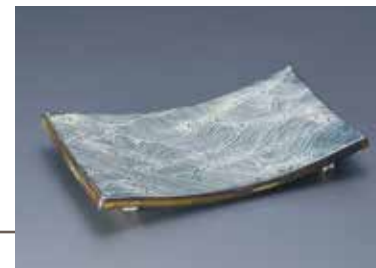
蓋付角壺 2017年
Covered box
2017



扁壺 2017年
Pilgrim flask
2017



角皿 2017年
Square dish
2017



角花瓶 2017年
Square vase
2017

面取水差 2017年
Cut sided jar
2017

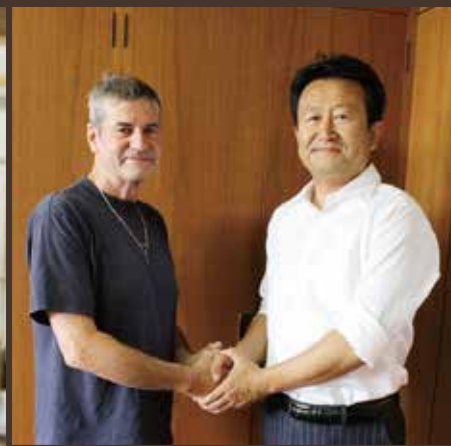


益子人孔文皿 2017年
Dish with
Mashiko manhole pattern
2017





交流イベント Cultural Exchange Events



		B	G
A		C	H
D	E	F	I

町長表敬訪問(B)

10月5日(木)
場所: 益子町役場

公開制作(A,G)

10月11日(水)・19日(木)
14:00-16:00

場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

東京でのグループ展のため来日していたリサ・ハモンド(イギリス陶芸家、益子国際工芸交流事業2015年春招聘作家)も見学。

工房での制作(E)

10月18日(水)
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

制作実演ワークショップ(C,H)

10月21日(土) 13:30-15:30
場所: 益子国際工芸交流館

パソコンで描いた模様で型をつくり、うつわの表面に模様づけを体験。制作過程を実演。参加者もタイトルの模様づけを体験。

記念講演会(D)

10月28日(土) 13:30-15:30
場所: 益子国際工芸交流館

アーティスト・イン・レジデンストークショー(I)

11月12日(日) 13:00-15:30
場所: 濱田庄司記念益子参考館 上ん台
ヨリス・リンク(オランダ陶芸家、陶芸の森 招聘作家)、濱田友緒(濱田庄司記念益子参考館 館長)、杉山道夫(滋賀県陶芸の森事務局次長(技術)兼 創作研修課長)と共にトークを行う様子。

濱田庄司登り窯復活プロジェクトVol.2(F)

11月12日(日)-2018年2月18日(日)
場所: 濱田庄司記念益子参考館



素材
・
技術
Materials and Techniques

ジョン・ベディングは、イギリス・セントアイヴスのリーチ工房で約8年間勤務した後、丹波の陶芸家・市野茂良の工房で1年間滞在制作、その後コーンウォールで独立し、現在はセントアイヴスで集合型工房「ジュエルヤードスタジオ」を運営しています。近年は、感光乳剤を塗った布にプロジェクタで模様を投影してつくる型うつわの表面に模様を施すという、独自の手法で作品を手がけています。

益子では、坂下原土の並土、赤土で形を作り、益子の伝統釉（黒釉、柿釉、並白釉、糠白釉）での作陶に挑戦しました。型の模様は、普段からフォトショップ (Photoshop) などの描画ソフトで描いており、今回は町内で目にしたマンホールの柄で型をつくり「益子人孔文皿」が生まれました。

国内の工芸系アーティスト・イン・レジデンス機関との連携で、滋賀県立陶芸の森、京都芸術センター、瀬戸市新世紀工芸館と共に開催したトークショーでは、ジョン・ベディングとヨリス・リンク（オランダ陶芸家、陶芸の森 招聘作家）が自身の活動や滞在制作について紹介、その後、濱田友緒（濱田庄司記念益子参考館 館長）、杉山道夫（滋賀県陶芸の森 事務局次長（技術）兼 創作研修課長）と共にトークを行いました。また、同時期（2017年11月～2018年2月）に濱田庄司記念益子参考館で開催された、濱田庄司登り窯復活プロジェクトVol.2「登り窯がつなぐMASHIKO & KASAMA POTTERS」では、益子・笠間の作家と共に登り窯でも作品を焼成しました。

- 1) 感光乳剤を布に塗る
- 2) 暗所で乾かした布を板に貼り付ける
- 3) 部屋を暗くしてプロジェクタで模様を投影する
- 4) 布を取り外し、ぬるま湯に晒して軽く洗う
- 5) 強い水圧で乳剤を落とすようにしっかり洗う
- 6) 机の角などで乾かす
- 7) 乾いた型をうつわに乗せ、上から薄いスリッパ（泥）を塗り、接着させる
- 8) 型の上から絵の具を塗り、模様をつけたら型を剥がす

主催 益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館
会期 2018年3月30日（金）ー6月17日（日）
会場 益子陶芸美術館

Organized by
Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town
Mashiko Museum of Ceramic Art
30 March - 17 June, 2018
Mashiko Museum of Ceramic Art

益子国際工芸交流事業 2017
アーティスト・イン・レジデンスin益子
John Bedding展

編集・制作 / 益子陶芸美術館
発行 / 益子町文化のまちづくり実行委員会
〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

Mashiko Museum Residency Program 2017
Artist in Residence in Mashiko
The exhibition of the works by John Bedding

Editing and Design/Mashiko Museum of Ceramic Art
Publication/Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town ©2018
3021, Mashiko, Mashiko-machi, Haga-gun, Tochigi, Japan 321-4217

Photos : Mashiko Museum of Ceramic Art

凡例

- ・本書は2018年3月30日（金）から6月17日（日）まで益子陶芸美術館で開催される「益子国際工芸交流事業2017 / アーティスト・イン・レジデンスin益子 / John Bedding展」の図録である。
- ・本書のデザイン・制作は月村真由美が行なった。
- ・作品写真は横堀聡が撮影した。
- ・本書の編集は月村真由美・大西昌子、翻訳は松崎怜子が担当した。

Editor's Note

- ・ This booklet is an exhibition catalogue for the exhibition "Mashiko Museum Residency Program 2017 Artist in Residence in Mashiko The exhibition of the works by John Bedding" being held at the Mashiko Museum of Ceramic Art from 30 March through 17 June, 2018.
- ・ This catalogue was designed by Mayumi Tsukimura.
- ・ The photographs of works were taken by Satoshi Yokobori.
- ・ This catalogue was edited by Mayumi Tsukimura and Masako Onishi, and translated by Reiko Matsuzaki.

